

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	太良町立多良小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の基盤として、「落ちついた学校づくり」に全職員、全保護者で取り組み、具現化できつつある。特別な支援の必要な児童についても、組織的な対応や取組ができてきている。 ・各フロアを一つのグループとして、教育活動の実践や検証を行うというスタイルが定着してきている。 ・学習、生活の両面において、めあてを意識し、根気強く取り組む活動（めあて・活動・振り返り）を充実させようとする職員の意識の向上と実際の取組が見られるようになってきた。
2 学校教育目標	「大人も子どもも、目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”～生涯学びの基礎づくり（学びの習慣づくり）～」
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育基盤の確立」：教育活動のすべてを学びの機会と捉え、子ども達の活動時間を確保した上で、自分の“成長”“伸び”“変容”を実感させることで、一人一人が自分の力を発揮し輝くことができる教育活動を行っていく。 ・「学力の向上」：『めあて・活動・ふりかえり』の学びの習慣を身につけさせ、学力向上の基盤となる、言語力の向上に向けた取組を、国語科を中心にして、全教科・全領域、学校行事等で行う。（子ども達の話す、聞く、書く、話す場面を増やす。）

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価	学校関係者評価		主な担当者			
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○授業改善の推進 ○学習意欲の向上と言語活動の充実 ○基礎学力の向上	・授業改善を進めた教師の割合90% ・授業が分かると思えた児童の割合90% ・授業や学校行事の中で自分の考えを話したり、書いたりすることができると答えた児童の割合80% ・授業ではめあてに向かって、最後まで諦めずに取り組むことができた児童の割合80%	・学習状況調査・CRTの分析と活用 ・ICT(タブレット)の活用と隙間読書の奨励 ・ノートグラプリや音読コンクールなど児童の学習意欲が高まるイベントの企画 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、校内研や定期的なフロア研修の中で振り返りや情報交換を行う	B	・学習状況調査・CRTの分析と活用は、校内研修や日々の授業を通して行うことができた。 ・ICT(タブレット)では、特に家庭学習における活用を2学期に進めて行く。夏休みの宿題で活用した学級377。 ・学習意欲が高まるイベントは、毎月企画をし、意欲をもって取り組む児童をさらに増やす。 ・最後まで諦めずに取り組む児童の割合を上げるために、引き続き校内研等を通して、振り返りや情報交換を行う。	B	・授業改善を進めた教師の割合100%。 ・考えを表現できた児童の割合76%。 ・各種イベントの実施により、学習意欲や主体性の向上につながったが、CRTの点数に結びついていない。自分の考えを表現できる授業とともに、基礎基本の定着を図る授業を、校内研を通して進めてい必要がある。 ・タブレットの活用は進んだが、読書量は減ったため、ICT活用と読書教育のバランスを取っていくことが課題である。	B	・読書活動の推進が必要。低学年から本に親しませることで言葉遣いの改善にもつながっていく。 ・学ぶための姿勢、心構えを小学生の間にしっかり身につけてほしい。	井上・吉田・学力PJ	
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・困っている人や周りの人によさくできていると思う児童90%以上。 ・人権集会や全校集会を通して人権について深く考えることができたと思う児童80%以上。	・道徳教育(ふれあい道徳)の充実 ・人権週間及び人権集会の実施と振り返りシートへによる意識付け	B	・児童アンケートからは、「困っている人やまわりの人によさくすることができていますか」という質問に対し、85%の児童がおおむねできていくと答えている。毎月の全校集会で、人に対してのいい方や接し方についても話をしており前向きな児童が多い。12月の人権集会、週間にむけて継続して行っていくたい。	B	・児童アンケートからは、90.1%の児童が肯定的にできていると回答していた。人権集会の振り返りでも、いじめを自分事として考えた感想が多く見られた。アンケートも89.4%の児童が人権について考えることができたと思えた。	B	・自分を大切にすることは他者も大切にできていると感じます。それぞれを尊重できる心が育ってほしい。	田中・山崎・中島・里見生活PJ
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・学校で誰かに相談できると答える児童の割合90%。 ・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事案対応等について組織的対応ができていくと回答した教員の割合を増やす。	・いじめ防止基本方針の確立と見直し ・年間計画に基づいたいじめ防止対策の実施 ・いじめ防止に関する研修(長期休業) ・教育相談週間の実施、心のアンケートや学習生活についてのアンケートの実施による実態把握。職員アンケートの実施	B	・学校評価アンケートの「先生は皆さんが困ったことや悩みなどを相談したらよ聞いてくれますか」に肯定的に答えた児童の割合85%だった。 ・教育相談週間は2回実施し、担任と児童一人ひとりが話し場をつくることできている。	B	・児童の回答では、88.5%の児童が肯定的にとらえていた。中間評価のころと比べ、3%増えた。教育相談の回数を増して話し場を作れたことはよかった。児童が話しやすい学級・学校環境を作る。その一貫として組織的に児童の状況の把握を職員間で密にしていこうと継続していく。	B	・評価は妥当	永石・中島・教頭・生活PJ
●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動		●「先生はあなたのよいところを認めてくれてありがとう」と回答した児童の割合90% ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合85%	・きらめきカードを学期に1回(6月、11月、2月)取り組み、担任は児童にフィードバックを行う。 ・キャリアパスポートを活用し、夢や目標を意識する機会を設ける。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれてありがとう」と回答した児童の割合は82.5%だった。きらめきカードを活用し、継続的に児童個人を褒めていく。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合は85.1%だった。今後も学期ごとに夢について意識する機会を設けることで、夢や目標をもてる児童の割合を増やしたい。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれてありがとう」と回答した児童の割合は82.5%だった。きらめきカードを活用し、継続的に児童個人を褒めていく。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合は85.1%だった。今後も学期ごとに夢について意識する機会を設けることで、夢や目標をもてる児童の割合を増やしたい。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童の割合は、90.2%で、目標値に達していた。キャリアパスポートを学期ごとに取り組んだことが効果的であった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれてありがとう」と回答した児童の割合は、87.6%で前回より上昇しているが、達成できていない。きらめきカードを効果的な時期(教育相談期間)に設定し、児童全員へのフィードバックができるようにしたい。	A	・評価は妥当	森田・特活PJ・各担任
●健康・体づくり	○児童自身が、自分のよさや可能性を認識し、自己肯定感・有用感を育む教育活動	・自分には良いところがあるといえる児童の割合80%	・特活の行事(運動会、学習発表会等)の後ふりかえりを行い、児童一人一人の頑張りや賞賛し、自己肯定感を高める。	B	・自分には良いところがある」と答えた児童の割合70.3%だった。今後の特活の行事を通して、児童の自己肯定感を高めていきたい。	C	・自分には良いところがあると答えた児童の割合は、63.3%だった。「ほかほかの木」の取り組みを年度当初や行事の際に行うことで児童の自己肯定感を高めたい。また、目標数値を実態を踏まえて設定する。	B	・一人一人の活躍の場の設定。友達からの承認。友達のいいところを認め褒める教育活動を進める。 ・先生方の声かけは子どもの希望になり得ると思えます。	山崎・特活PJ・全職員	
	④「望ましい生活習慣の形成」 ⑤「健康・安全を考えて行動できる能力の育成」	②早寝・早起き、朝ごはん(喫食)を心掛けていると回答した児童の割合80%以上。 ⑤校内外で安全な生活を送ろうとしている児童の割合80%以上。	②6月と11月の食育月間での指導、確認 ②食育授業の全学年実施と栄養教諭による給食指導 ②長期休業明けの生活チェックカードの実施。 ⑤集会での生活指導。 ⑤地区児童会での指導。 ・児童アンケートの実施。	・100点運動の結果によると、朝ごはんに関しては、80%以上の児童が朝ごはんを喫食している。 ・学校評価アンケート結果より「早寝早起きなど規則正しい生活ができていますか」に肯定的に答えた児童は82%だった。 ・定期的な集会や地区児童会で安全に関する生活指導を継続している。 ・学校評価アンケートで「校内や校外では、安全やマナーを考えて生活できていますか」に肯定的に答えた児童が87%だった。	B	・2月までの児童アンケートで「早寝早起きなど規則正しい生活ができていますか」に肯定的に答えた児童は71.1%だった。 ・学校評価アンケートで「校内や校外では、安全やマナーを考えて生活できていますか」に肯定的に答えた児童が90.4%だった。 ・基本的な生活習慣、食に関する指導は、定期的に行い、家庭との連携を図っていく。 ・安全に関する事項は、向上した。集会や放送などの全体指導を自分事とらえた児童が増えたのだと思う。	B	・本来は各家庭でしっかり取り組むことが大前提だと思います。 ・評価は妥当	福田・中島・永尾・生活PJ		
	○運動・スポーツへの関心拡大と積極的な関わり促進	・運動・スポーツをすることが楽しいと回答した児童の割合80%	・スポーツチャレンジへの積極的な参加 ・体育科の授業を中心として様々な運動・スポーツに親しむ	・「運動・スポーツをすることが楽しい」と回答した児童の割合は88.1%だった。引き続き、体育科の授業を中心として、さらに様々な運動に親しむ機会を設けていきたい。	B	・「運動・スポーツをすることが楽しい」と回答した児童の割合は88.1%だった。引き続き、体育科の授業を中心として、さらに様々な運動に親しむ機会を設けていきたい。	A	・「運動・スポーツをすることが楽しい」と回答した児童の割合は、87.6%だった。今年は、外副講師を起用してのスポーツイベントの実施が効果的であった。引き続き、体育科の授業を中心として、さらに様々な運動に親しむ機会を設けていきたい。	A	・スポーツイベント素晴らしいと思ってしています。 ・評価は妥当	秀・堀・特活PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を全職員遵守する。 ●年間20日の年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・協働体制づくりと業務見直し・改善 ・教育課程及び校時運行の見直しによる時間の確保 ・「多良小学校教育のてびき」を作成し、業務の見える化を図る	B	・毎週金曜日に定時退勤推進日を設定、また、夏季休業中は学校の施設時間を早めた結果、9月までの時間外在校時間の平均は25時間であった。 ・毎月の行事計画に、年休を取りやすい日、時間帯を明示し年休取得の意識を高めた。 ・9月現在までの年休の取得日数は平均8.6日であった。	B	・2月までの時間外在校時間の平均は約25時間であった。しかし、個人差が大きく月平均30時間を超える職員が7名いる。 ・12月までの年休取得日数の平均は約12日であった。 ・定時退勤や年休取得促進の意識は高まっているが、能力や適性に応じた業務分担等をさらに進める必要がある。	B	・子どもたちのためにも先生方自身の体調管理が大切。 ・教員を増やすことや先生方の時間を生み出すことなどこれからは工夫を続けていく必要がある。 ・先生方の身体・精神が安定働きやすい職場でありますように。	校長・教頭	
●特別支援教育の充実	○自立に向けた特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上。特別な支援を要する児童への対応力の向上	・特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員の割合の増加	・特別支援教育に関する職員研修の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	B	・職員へのアンケートの結果「特別支援教育に関する知識を身に付けて、普段の授業や子どもの関わりを活かしていますか」に肯定的に答えた職員は87%だった。	B	・職員へのアンケート項目「特別支援教育に関する知識を身に付けて、普段の授業や子どもの関わりを活かしていますか」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた職員が100%になった。	A	・知識を身につけ、日頃の教育活動の全職員が生かしていることなのだからA評価でよい。	里見・秀	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価					
評価項目	重点取組	成果指標（数値目標）	具体的取組	進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言		
○学校と地域等の連携強化	○児童、学校、保護者、地域、行政等、五者間連携の活動促進	○地域学校協働活動への参画意識の向上と参画した地域住民、保護者等の増加	・学校行事、校外活動、日常の教育活動へのボランティア参加(保護者、地域の方)。 ・学校行事参加の依頼、呼びかけ、宣伝。 ・PTA主催「ひっかけて子育て」大茶話会の開催。 ・気軽に学校に足を運べるような働きかけ。	B	・地域連携コーディネーターと連携しながら、様々な体験活動の実施やボランティアの招聘などを行うことができた。 ・今年度はPTAの活動目標を設定し、全保護者に周知することで、教育活動への参画を意図してもらった。 ・今年度も大茶話会を行う。保護者同士が意見を交わす場を設けた。11月には各学級でミニ茶話会を開催予定。	A	・地域連携コーディネーターと担当、担任との連携により、行事、授業への地域ボランティア参加が多数得られた。 ・4月の大茶話会や11月の学級懇談会、PTAの活動目標「あいさつ」の設定や標準作りなど、保護者、学校が協力して児童の育成に関わるきっかけ、機会作りを行った。	A	・「あいさつ運動」は重要だし継続してほしい。声を出し挨拶することが目上の人を敬うこと、人権意識の醸成にもつながる。	校長・教頭、教務、各担任、地域連携CO	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育											
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育基盤の確立」：教育活動のすべてを学びの機会と捉え、子ども達の活動時間を確保した上で、自分の“成長”“伸び”“変容”を実感させることで、一人一人が自分の力を発揮し輝くことができる教育活動を行っていく。 ・「学力の向上」：『めあて・活動・ふりかえり』の学びの習慣を身につけさせ、学力向上の基盤となる、言語力の向上に向けた取組を、国語科を中心にして、全教科・全領域、学校行事等で行う。（子ども達の話す、聞く、書く、話す場面を増やす。）読書活動の推進。 ・人権教育。他者を思いやる教育活動の工夫と推進。（環境教育、美化活動） 										